

## 新たに開設した口腔生命福祉学専攻(修士課程)について

### —口腔を基盤とした 総合的保健医療福祉分野の展開を目指して—

医歯学系・教授 大内章嗣  
(口腔生命福祉学科 福祉学講座)

新潟大学歯学部では、すべての方の「安心して美味しく食べる」ことを支援するという観点から、2004年4月に歯科衛生士と社会福祉士のダブルライセンス取得を目指すという4年制大学課程の口腔生命福祉学科を開設しました。

以来、早いもので4年が経過し、歯学部教職員をはじめ、皆様のご支援ご協力により、本年3月末には27名の第1期生が就職あるいは進学へとそれぞれの目標を胸に果たしていききました。

これと併せ、本年4月には大学院医歯学総合研究科に口腔生命福祉学専攻(修士課程)を設置し、6名の学生とともに新たな一歩を踏み出しています。

本稿では、新たに設置した口腔生命福祉学専攻のねらい、教育課程の特徴等についてご紹介させて頂きたいと思っております。

### 1. 口腔生命福祉学専攻設置の背景と目的

これまでのゴールドプラン等に見られるように急速な高齢化のなかで、介護・老人福祉分野を中心に、どちらかというと質より量の確保が優先されてきた傾向がありましたが、近年は国も質の担保に向けた施策に重点を移しています。加えて、保健医療福祉サービスに対する国民のニーズは多様化・高度化しており、これに応える保健医療福祉従事者の資質の向上が大きな課題となっています。

歯科衛生士についても、2005年に歯科衛生士学校養成所指定規則の改正がおこなわれ、3年制への転換が進むとともに、4年制大学課程の開設も

相次ぎ、現在では5校を数えるに至っています。

歯科以外の分野を見ても、昨年、社会福祉士・介護福祉士の資格養成制度の大幅な見直しが行われるなど、近年の保健医療福祉政策は量から質の確保へと急速に舵を切っており、より質の高い保健医療福祉サービス従事者の確保が重要な課題となっています。

また、介護保険制度における「口腔機能の向上」の位置づけなど、介護・福祉・医療関係者の側からの口腔ケアや摂食嚥下リハビリに対する関心や期待も急速に高まっています。これは我々が普段の歯科医療現場で感じているよりも著しいものがあり、行政や歯科医師会などが開催する介護・医療従事者向けの口腔ケア研修会は、どこも定員の2倍、3倍の申込みが殺到するのが当たり前となっています。

修士課程の設置にあたり実施した県内福祉関係施設の従事者を対象としたアンケート調査(N=221)でも、回答者の96.3%が「今後、『食ること・口腔機能の維持向上』に関する総合的支援の必要性が高まる」と考えており、また、68.8%がこうした高度専門知識を身につけた人材の職場への配置を希望すると回答しています。(なお、このアンケートには児童、障害者福祉などの施設従事者が含まれており、高齢者福祉施設に限るとこれらの割合はさらに高まります。)

こうしたことから今回設置した口腔生命福祉学専攻では、その人材養成の目的として、『口腔を中心とした生命医療科学を基盤として、高度な知識・技術を有し、総合的な口腔保健医療・福祉サービスの分野で指導的役割を果たせる実践的高度専



図1 口腔生命福祉学専攻の概要

門職業人』と『口腔生命科学と実践的な社会福祉学領域との統合的・学際的研究および教育を推進できる人材』を育成することを掲げています(図1)。

本専攻は口腔生命福祉学科を始めとした歯科衛生士を養成する4年制大学課程の卒業生などに、更に高度な知識・技術を習得し、ステップアップを目指す場を提供するとともに、社会人枠を設定して、保健医療福祉の現場で働いている様々な専門職の方にも門戸を開放しています。こうした方に対し、摂食嚥下リハや口腔機能の維持管理などに関するリカレント教育の場を提供するとともに、多職種協働による学際的・統合的な研究分野を展開していきたいと考えています。

## 2. 教育課程の特徴

専攻では、2年間の課程のなかで、修士論文を作成する「特別研究」8単位を含む30単位以上の科目を履修することになり、修了時に授与される学位は「修士(口腔保健福祉学)」となります。

開講される科目は、全員が必修となる「共通基礎必修科目」(計10単位必修)と学生個々のニーズ等に応じ選択する「専門選択科目」(計20単位以上の履修)に区分されており、専門選択科目は大き



写真1 新たに整備した研究室での講義風景

く「口腔保健医療推進学領域系」と「口腔医療福祉援助学領域系」に分類されています。専門選択科目では各領域系の特別研究8単位を含む計18科目が開講されます(写真1)。

ただし、専門選択科目における領域系の分類は、あくまで歯科・口腔疾患の予防管理や摂食嚥下リハなどの保健・医療分野が中心となっているか(口腔保健医療推進学領域系)、相談援助などの福祉系分野が中心となっているか(口腔医療福祉援助学領域系)という各科目の内容を大まかに整理した分類であり、各学生はそれぞれの領域から自由に科目を選択することが可能です。

カリキュラムの特徴としては、1) 専攻が目指す口腔保健医療・福祉を通じた統合的・学際的な知識・技術の習得や研究を推進するため、共通基礎必修科目について30単位中の10単位必修として、大きなウェイトを置いており、ここで習得した広範な視点及び知識に基づいて、自らの課題を深めていくことができるようにしていること。

2) 主要な専門選択科目については、基本的事項の習熟に重点をおいたA(基礎)科目と、より進んだ専門的内容を習得するB(展開)科目を設定し、様々な学生の背景(所持資格)やニーズに応え得る、自由な科目選択を可能としていること。などが挙げられます。

本年度は、設置認可等の関係で、公募期間やPR活動が十分でなく、口腔生命福祉学科の第1期卒業生だけで定員の6人を満たすことになっていますが、すでに保健医療福祉現場で従事されている方からの問い合わせもいくつか頂いています。将来的には様々な背景、知識・経験を持った学生さんが集まり、それぞれの特徴を生かしながら協働することで、相乗効果を生み、本当の意味での口腔保健福祉学という学際的新領域を確立していくことを期待しています。

## おわりに

去る5月15日に口腔生命福祉学専攻設置記念式典・祝賀会を開催しましたところ、文部科学省、新潟県、新潟市などの関係機関をはじめ、新潟県歯科医師会、新潟市歯科医師会、新潟県歯科衛生士会、新潟県社会福祉士会、歯学部同窓会、同後援会などから多数のご列席を賜りました(写真2)。

この場を借りて、ご多用中にもかかわらずご列席いただきました皆様に心からお礼申し上げます。また、皆様から頂きました専攻への期待、激励にお答えすることができるよう、教職員一丸となって努力してまいりますので、引き続きのご指導ご協力を賜りますようお願い致します。



写真2 口腔生命福祉学専攻設置記念式典

